

史学委員会国際歴史学会議等分科会（第25期・第2回）
議事要旨

日時：2022年1月21日（金）15：00～17：00

オンラインによる開催

出席者：栗田禎子、浅田進史、飯島渉、石居人也、小田中直樹、小関隆、中野聡、
松方冬子、三ツ井崇、吉澤誠一郎

参考人：渡邊啓貴（帝京大学法学部教授）

1. 前回議事要旨の確認

開催日時の記載に誤記があったので、訂正することとした。

2. 国際歴史学会議について

吉澤委員長より、2022年8月にポーランド共和国ポズナンで第23回大会が開催される予定であることが説明された。

続いて、国際歴史学会議の理事を務める渡邊啓貴氏より、同会議の目的・構成・活動、現在の理事会の構成、2022年以降の予定についての説明があった。今後の活動として、2024年に東京で総会が予定されていること、その規模・日程等についての提案があった。

3. 日韓歴史家会議について

小田中委員より、2021年11月12日・13日に開催された日韓歴史家会議についての説明があった。全体テーマは「伝染病と歴史」であり、オンライン併用のハイブリット形式で運営された。両国の歴史研究者による国際研究交流としての成果があったことが報告された。

次回は2022年秋に開催を予定しており、引き続きこの国際事業を継続していく意義が確認された。

4. 「提言」の準備のための討議

吉澤委員長による論点整理をもとに、歴史学とその国際化をめぐって議論が交わされた。その際、以下のような意見や論点が出された。

- ・歴史学のなかでも対象とする領域ごとに、国際化の課題は異なるのではないか。
- ・日本史研究者が英語で成果を発表することは必ずしも容易ではないという現状をどのように考えるのか。

- ・ AI といった新技術と国際化はどのような関係にあるのか。
- ・ 大学教育における英語の使用をどのように考えるのか。

5. その他

- (1) 「提言」については、今後も議論を継続していくこととした。そして、吉澤委員長から、その議論を踏まえた公開シンポジウムを第 25 期のうちに開催してはどうか、との提案があった。
- (2) 次回の分科会は次年度の開催予定とする。